

毛呂山町「鎌倉街道上道」が 国指定史跡に答申されました

令和4年6月17日、国の文化審議会は、毛呂山町の鎌倉街道上道を国の史跡に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。正式な指定は令和4年秋頃になると思いますが、埼玉県で23件目、中世の街道に関する遺跡の指定は、県内初となります。

問合せ 歴史民俗資料館 ☎295-8282

鎌倉街道って何？

鎌倉街道は、中世、鎌倉と諸国を結ぶ幹線道路で、関東地方では上道、中道、下道の3路線が主要道とされていました。このうち上道が毛呂山町東部を通っていました。鎌倉街道という語は、江戸時代になってから使われるようになりました。

国指定の史跡になるのは道だけなの？

史跡は鎌倉街道上道という名称ですが、道だけではなく、種類の異なる複数の遺跡がまとまって、「鎌倉街道上道」を構成しています。大きく分けると・・・

①交通遺跡の鎌倉街道A遺跡、鎌倉街道B遺跡、鎌倉街道C遺跡、^{ほとけざか}仏坂遺跡の4遺跡



鎌倉街道A遺跡



鎌倉街道B遺跡



鎌倉街道C遺跡



仏坂遺跡

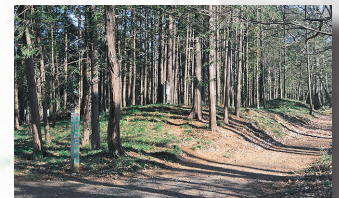
②集落跡の^{どうやました}堂山下遺跡



③寺院・墓地跡の^{すうとくじ}崇徳寺跡



④街道近くの塚（川角古墳群の一部）



「鎌倉街道上道」が国指定史跡になった理由は？

4つの異なる種類の遺跡が、まとまって指定を受けることになりました。

毛呂山町の鎌倉街道は、路線として良く保存され、地表面を溝状に掘りくぼめ路面と側溝を造る「掘割」の形を随所に留めています。また、鎌倉街道の両側に広がる^{どうやました}堂山下遺跡は、鎌倉街道の宿場の一つである「^{にがばやしじゆく}苦林宿」とされています。堂山下遺跡の西隣の^{いたび}崇徳寺跡は、板碑を立てた中世の墓地がよく保存されています。そして、街道沿いの塚（川角古墳群の一部）は古墳時代の古墳が中世以降、再利用され、鎌倉街道苦林宿の内外を隔てる境目になっていたようです。鎌倉街道と堂山下遺跡、崇徳寺跡は、同時期に存在し、主要な役割も同じ時期に終えたと考えられます。

このように鎌倉時代から室町時代の中世の道、宿場、墓地と境界に位置する塚群（川角古墳群の一部）が良く保存され、中世の街道と河川渡河点付近の歴史的景観を一体的に復元できる重要な遺跡群として評価されました。

これからの鎌倉街道

鎌倉街道上道周辺を対象に、平成16年度から除草清掃活動を継続してきました。今後も来て良かったと思われる遺跡の環境づくりと活用について考えていきます。

また、毛呂山町の小中学生には、現地を訪れ、遺跡の持つ雰囲気や独特の空気、ふるさとの良さを体感できるように、啓発事業を進めていきます。



鎌倉街道での校外学習（川角中学校）

毛呂山町の未来を変える!

第2回 毛呂山町

ビジネスコンテスト結果

「毛呂山町ビジネスコンテスト」は、地域課題をビジネスによって解決するためのアイデアを持つ事業者を広く募集し、若者が「使いたい」、「働きたい」と思えるビジネスを毛呂山町につくることを目的として開催されました。6月25日に一次審査が行われ、各提案者がプレゼンテーションを行い、大学生を中心とした30歳以下の若者や経済産業省職員、大学教授などによる審査が行われました。当日は、城西大学の協力のもと開催され、コンテストの進行や演出などを学生たちが行いました。6月27日には二次審査が行われ、各提案者のプレゼンテーション後、補助金額の決定等が行われました。4・5ページでは、採択された3組をご紹介します。

主催・問合せ 株式会社もろやま創成舎（役場205会議室）

☎ 050-3204-0415 ✉ info@souseisha.biz

ビジネスコンテストの流れ

エントリー (4/1~5/31)



事務局審査 (5月上旬)

スマートシティ協議会において、提案者の応募資格要件等の確認を行う。



一次審査 (6/25)

提案者が提案内容の発表を行い、審査員による得点審査を行う。



二次審査 (6/27)

スマートシティ協議会構成員により事業性等の審査を行い、補助金額等を決定する。

募集部門

チャレンジ枠

- ・個人も含め、今すぐ事業を実施したいという人向け
- ・事業に必要な設備などを補助金の形でサポート

～採択者へのサポート～

★補助金総額 1,000万円

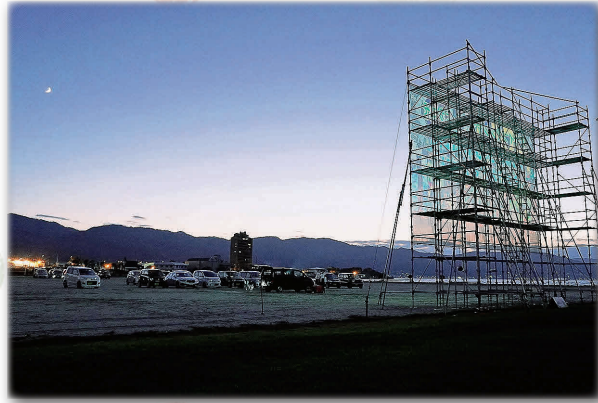
補助率100%、上限500万円の範囲で希望金額を提示





毛呂山で夢を見た

MOROYAMA野外シアター



毛呂山町へ与える変化

企画概要にあるとおり、毛呂山町のイメージを変えつつ関係人口を増やすことにつながります。町内で開かれるイベントとの連携から町内における「ワクワク」を確実に増やせる企画です。また、若い世代だけでなくすべての世代に親しまれるコンテンツになりうる企画です。

創成舎社長が語る

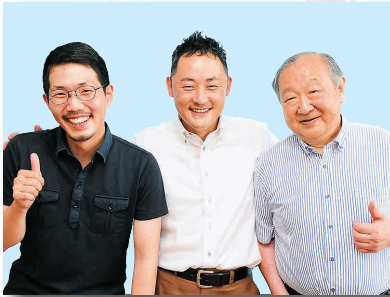
ここがポイント！

この企画のポイントは、シアター事業だけでなく様々な事業収益を通じた持続可能性の高い経営計画になります。国内外問わず社会情勢の振れ幅が大きい時代ですから、収益の多面化は大変良いアイデアです。

企画概要

野外シアターの実施により、コロナ禍での閉塞感を吹き飛ばす！「ドライブの町・毛呂山」、「実は映画のある町・毛呂山」、「夢見る町・毛呂山」を発信していくことで、第五次毛呂山町総合振興計画後期基本計画・第2期毛呂山町総合戦略にある新しい人の流れの創出に貢献する。

町外からの注目度が上がり、町内外の交流が生まれる事業を通じ、関係人口増に寄与したい。



走る！毛呂山株式会社

経営者、農業者、各分野の専門家が参画する企業。社名のとおり、毛呂山町のために走り、汗をかきます！

毛呂山町無人古着店



毛呂山町へ与える変化

毛呂山町内はもちろん、近隣沿線に存在しない「オシャレな」古着店の立地により、周辺エリアからの若者を中心とした関係人口の増加が見込まれます。また、これまで町外に流出していた消費額の一部が毛呂山町内に戻る可能性を秘めた企画です。

創成舎社長が語る

ここがポイント！

この企画の一番のポイントは、都内や県内大都市にあるような「オシャレな」古着店が毛呂山町内に立地することです。学生はもちろん子育て中の人も含めた若い世代にとっての「あったらいいな」が実現する企画です。

企画概要

若い世代が関心を持つ「オシャレな古着店」を毛呂山に！都内の古着店との連携や、「SNS映え」を意識した店舗づくりやICT技術を駆使し、コロナ禍で定着した「非接触」、「無人」のリアル店舗を運営する。

若者のオシャレ需要を満たすことで、若い世代にとって魅力的なまちづくりを通じた移住定住の一助になる。

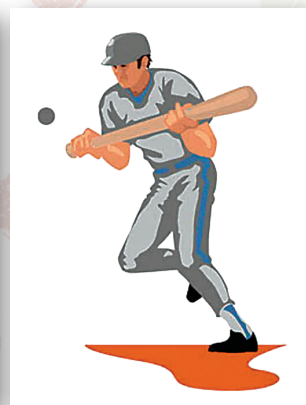


株式会社 ReP

リユース事業を展開する川越市の若い企業。ファッショントレンドを、古着を通して広めます！

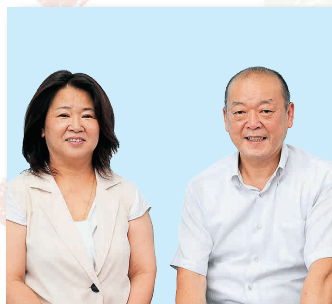


野球教室型バッティング施設



企画概要

野球を軸とした「心技体を整えられる」施設を実現する。
全国的にほとんど存在しない「硬式試合球」を用いたマシンと、「フォーム解析ツール」を導入する。
関東に存在しない専門人材育成プログラムを導入によりメンタル面まで含む人材開発を行う。
若い世代の雇用、半径10キロメートル圏内からの関係人口増、魅力的な子育てコンテンツを実現する。



有限会社ショービ

坂戸市の老舗新聞店。長年のご愛顧を本事業で地域の皆さんに恩返し！

何と言っても「全国的に存在しない」コンテンツという点です。まちづくりの成功事例である岩手県紫波町でもこういった方向性の企画（世界レベルのバレーボール専用体育館）を展開しています。

創成舎社長が語る
ここがポイント！



全国的にほとんど存在しない施設が立地することで、毛呂山町が「移動の目的地」に変化します。多くの人が集まるということは、人同士のつながりが新たな変化を生み出します。特に多感な子どもたちにとってこの施設での出会いは、心技体の成長につながる貴重な出会いになるでしょう。

毛呂山へ与える変化

第2回毛呂山町ビジネス

コンテスト結果および講評

結果

今年度のビジネスコンテストでは、町内外から30件以上のお問い合わせをいただき、7件のエントリーにて一次審査を開催しました。一次審査では、審査結果70点を超えると通過になりますが、今回は7件のうち6つの事業が70点を超え、一次審査通過という結果になりました。

二次審査では、各提案者からの補助希望額を受け、それに対する採択、未採択を検討しました。最終結果は左記のとおりです。

提案者	補助金
走る！毛呂山株式会社	5,000,000円
株式会社ReP	5,000,000円
有限会社ショービ	創成舎による伴走支援(※)

(※)・各種補助金申請に係る支援
・金融機関等からの資金調達にかかる支援
・事業計画等の支援
・その他、事業実施に必要と考えられる各種支援

審査員講評

第2回のビジネスコンテストでは、第1回から応募数も増え、提案内容も毛呂山町の活性化にどのように貢献できるかをさらに深く考え、練られたプランばかりでした。また、毛呂山町に新たな魅力や地域資源を掘り起こそうという意欲的な提案も多くありました。このビジネスコンテストの最も重要なポイントは、行政だけでは成しえない多種多様なソーシャルビジネスの芽を、もろやま創成舎や関係団体等が全面的にサポートしながら、地域とつないでいくプロセスそのものだといわれています。今後も、毛呂山町役場や地域の皆さんからの温かいサポートを通じて、毛呂山町に関わりたと思う若い人が、ますます増えていくことを期待しています。



審査員

明治大学政治経済学部
野澤千絵 教授